

終わりの始まり  
天神野を潤す  
森の物語

# 実施状況

NPO サカズキネット

## 実施状況

- 今年の物語は「終わりの始まり天神野を潤す森の物語」と題して、倉吉市関金町大山池湖畔で実施した。  
「終わりの始まり」とは、小学校（山守小、関金小）の統廃合や旧国鉄倉吉線など縮小・過疎化していく中山間地域こそ、大切な森を守り、命の根源である水を育む源流域であると捉え、この地を選んだ。
- 実施にあたり次の点を留意した。  
一つは参加者に森林環境保全税の意味を深く理解していただく事。  
二つ目は、地元の人達が参加者に見て感じてほしい場所や、食べて喜んでほしい手づくりの料理メニュー等はなるべく外さないようにした。  
そこにこそ里山の心が凝縮していると感じたから。  
参加者は提供されるコースや昼食に、森や林との強い関わりを体感するだろう。  
そして、その記念に植樹をすることで、里山と参加者の結び付は生涯のものとなると信じて、これが連続11年繰り返されてきた「森の物語」のこころ。
- 来年の雪解けの頃には、もう山守小学校は無い。142年（明治6年創立）の輝かしい歴史を誇った学び舎を失う地域のひとたちの思いはいかばかりだろうか。  
山守小学校の親子は、100人を超す人達に見守られながら6本のヤマザクラを**記念植樹**した。  
子供達が、この記念の木々を10年、30年、50年先に大人になって見たとき、きっと美しい花を心に咲かしていることだろう。
- 植樹のもう一か所は、大山池湖畔のなだらかな傾斜地であった。ここには1.5mのイロハモミジ30本を植樹した。散策路の脇には東屋もあり、色づく紅葉と池と東屋のロケーションは湖畔の新名所となりうるかもしれない。
- 二か所の植樹の前後の合間に、「**終わりと始まり**」を象徴する場所を見学した。  
それは、伯耆国堀村（現関金町堀）にて悲運の生涯を閉じた、**里見忠義主従之廟**。里見一族を偲び山守小学校の児童の手で、「**里見子供歌舞伎**」が演じられ始めた。  
そして、県内唯一の「**円筒分水工**」施設の見学では、ため池からの水を5つの水路に分水して地域間の水争いを解消したようだ。ここからの分水の始まりが、田畑を潤す始まりの場所である。  
用水路から流れ出た水は、天神野を一気に駈落ち「**南国発電所**」のタービンを回す。  
この小水力発電所を見学し、自然に優しい再生エネルギー活用の始まりを学習した。
- 木漏れ日の中、心地よい疲れを感じながら「**木の実の里**」の恵みの中を探索した。  
閉会式のあと、希望する参加者と「終わりの終わり」となる、旧国鉄倉吉線跡のトレッキングを楽しんで全ての日程を無事終えることが出来た。
- 今回開催した事業で大きな役割を担っていただいたのが、地元スタッフの関金町明高でそば打ち体験や水車の郷を運営する、「**石臼の会**」の面々であった。  
昼食（明高そば）のお世話やテント張り、植樹会場の草刈り作業、地域の歴史講話等々、惜しみないご協力いただいた。  
もし、参加者が期待以上のものを感じていただいたならば、それは「石臼の会」の献身的努力のお蔭である。  
加えて、記念植樹の山守小学校PTAの皆様、藤山校長先生並びに関係者の皆様方に心より感謝いたします。

以上